

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第240号 (2025.9.21-2025.9.28)

- ◆ 参加者 クイスケ、藤井智史、西沢葉火、空野つみき、佐井杜有、なざわご、しまねこくん、カオルル、宮坂葵哲、もじおーる、堀川朽葉、汐田大輝、べろぼっこ、鈴木正巳、tu、輪井ゆう、西脇祥貴、池田突波、石川聡、天然石アクセサリー、bks、青海波、都まなつ、Nichtraucherchen、APU、美蟲角（びちゅうかく）、TATSU、片羽雲雀、季川詩音、akao、ねるのいつ、非常口ドント、水の眠り、山田真佐明、sak、守宮、秋月祐一、蔭一郎、笛地静恵、岡村知昭、胡椒黒、青山美樹、紺野水辺、もりや、ゆうたま、舞風奏かなで、星野響、雷らい、海月漂、しろとも、mazmo、まどけい、アリタ別館、霧雨魔理沙、江口ちかる、鈴音、石原とつき、彩葉いろは、牛田悠貴、涼、何となく短歌、リコシエ、春永睦月、名大、ぼち、中川晶子、山羊の頭、月波与生（六四名）

◆ 川柳・俳句

祝福のアンチテーゼとカーチエイス クイスケ
サロメから少女探偵の三日月 クイスケ
純真を首に結んで張り裂ける クイスケ
寝相の悪い涅槃仏 Nichtraucherchen
エデンの東三丁目 Nichtraucherchen
曇天に手をさしいれて寝てしまふ 江口ちかる
踏んできた海のしつぽを干している 江口ちかる
小鳥来て貴方は嘘つきだと言ふ 池田 突波
肝臓を振れば諸々の大吉 牛田悠貴
秋分の日はララ眠りキキひとり 蔭一郎
をみなえし陽キヤ陰キヤであるでなく akao

ワルツをヨとするならば 西沢葉火

ふたごのきみをきみに見せたい 都まなつ

おはようを迷う近隣のひと 都まなつ

すきつばらなら寝ましたよ 都まなつ

古すぎる飴玉の月 都まなつ

廃墟にも満たない切符 都まなつ

流星で回すガチャポン 都まなつ

切手が描いた炎の絵 都まなつ

今夜から瞳孔だけでバスを待つ 空野つみき

真つ暗な海岸パイプ椅子軋む 空野つみき

遺伝子揺らぐまいばすけつと ゆうたま

ビリギヤルの化石差し出すエジプト軍 ゆうたま

諺は飲むまでもなく微炭酸 ゆうたま

そのジユゴンあのジユゴンより片頭痛 岡村知昭

雨降って固まる地主 汐田大輝

神主を仰向けに干す 汐田大輝

人間椅子から母の声する秋風裡 汐田大輝

たばたばこたばこたばこ酒を飲む 山田真佐明

トーテムポールリトマス試験秋の空 山田真佐明

淫乱の極みは肉の淀む紫波 山田真佐明

夜風吹きマダムの軽はミライース 山田真佐明

腹肉でマダムナースは福々す 山田真佐明

買ひ物の袋は心枚マダム結い 山田真佐明

ひらかれてつい声洩らす竜胆や 片羽雲雀

九十九羽の九官鳥と俺の空 TAKU

ババロアにはかせてみたい靴がある 佐井杜有

排水口から小父さんが覗いてる soho守宮

好きだよと言いながら火を近づける もじおーる

大臣の椅子借りてくる運動会 しまねこくん

ゴーヤからゴーヤに唄ふ子守唄 しまねこくん

笹舟にスエズ運河を流しこむ 佐井杜有

透明な悪魔に悔しがる生身 藤井智史
よはくにしめすうたになり ねるのいつ
空耳に赤い金魚がついてくる 水の眠り
ぶつちんとあきとタイルとだまされる 石原とつき
大雨に地球が燃えて泣いている 彩葉

*

積ん読を実践します秋分の日 まどけい
後悔が心に刺さりトゲとなる なさむご
おにぎりの海苔しつとりと運動会 カオルル
異国にてマイノリティーとして生きる 宮坂変哲
病苦なき病も辛し薄紅葉 堀川朽葉
良き位置に鉄塔聳ゆ紅葉山 鈴木正巳
境界を越えておいでよ黄泉比良坂 ぽん
を霊能者にしたい親父 輪井ゆう
身を投げる法悦の嘘島みゆき 西脇祥貴
泥棒も見上げて泣くや星月夜 美蟲角
レンタルビデオのように生きろと言う 季川詩音
詐欺メールだけが連絡をくれる深夜 非常口ドット
土蜘蛛と鶴をボン酢でいただきます 秋月祐一
腐蝕画の女王の創の夜々深し 笛地静恵
くたびれてホームのベンチ沈み込む 青山美樹
処方薬たずさえてゆく秋日傘 紺野水辺
チョコが二倍のお値段シネよボケ もりや
秋霖にトゥルーエンドが口ごもる 星野響
捉えたものが消えた言葉の籠だけある 雷
放課後は甘くて酸っぱい 海月漂
どうしても爽やかになる退勤時 石川聡
図書館の庭のヘチマやファティマの書 石川聡
秋湿り畳で蜘蛛も正座する ぽん
罌雲はひとりの匹まで アリタ別館

大雨に地球が燃えて泣いている 彩葉

*

つわりがひどいピーチパイ 月波与生

◆ 短歌

地図なんて読めない地図が読めたならこんな遠くに来ては
なかった 鈴音

何度目の市役所だらう 多言語の秋の窓口除籍とる 堀川
朽葉

どこかで聞いた借り物の言葉で お前自身を語るな 天然
石アクセサリー - *Sticks*

*

道化のように踊りたいうつちゃって 絵に描いたようなお
月さんの眼下 青海波

涕々と苦みをすべて呑みこんでラムにおぼれたアイスクリ
ーム AREA

地価の高い渋谷の天津甘栗を噛み締め食べる 温故知新の
水の眠り

無理してもいいけどできればせんとつてくれたら嬉しい友
達各位 胡椒黒

意味のない願いも叶わない夢も抱きしめたまま 私朽ちて
く 舞風奏

更年期 そのしんどさを 理解せず そんな元カレ やめ
て良かった 霧雨魔理沙

地球とは宇宙の中の監獄で人類全て罪人らしい 涼
ふとした時思い出してね一年で一番長く話した人を 何と
なく短歌

地球ほど孤独ではないわたしがそれでもきみはいてくれ
るかい？ 春永睦月

家電たちの内緒話が響くからいつもより良いお酒をあける
非常口ドット

放課後に図書室にある辞典から恋と愛の違いを探そう 季
川詩音

◆詩・短文

マク…マク…と 心臓の声を聴かねばならない (へろぼっ
こ)

「詩は言葉ではない」と西脇順三郎は言った。同じように
私も思う。「踊りは身体ではない」。身体から遠ざかり続け
ること。身体に固着すればおどりは失われる。(最上和子)
→西脇順三郎にとって詩はビジョンだった。「詩」＝
「踊り」、「身体」＝「言葉」。そして、「身体(言葉)」か
ら遠ざかり続けること」 最上さんのこの詩的な表現から
伝わるものをしっかりと捉えたい。別のしかたで。(堀川
朽葉)

◆作品評から

大臣の椅子借りてくる運動会 しまねこくん

→一時的に、大臣の座を奪うのかもしれない。この場
合は物理的にです。でも、意外と快く受け入れてくれたり
するのかもしれない。「借り物競走で必要になりました。
少し使わせてください。」って。でも、運ぶのが大変。(季
川詩音)

流星で回すガチャポン 都まなつ

流星とガチャポンは意表を突く組合せだけでなく大小の対比もある。ガチャポンって運の良し悪しの意も。「○の星の下に生まれ」も響いてきて色々読めて楽しい句♪
（石川聡）

どこかで聞いた借り物の言葉で　お前自身を語るな　天然
石アクセサリー^{Stylin's}

　　綺麗事かのようにいうときに、誰かの言葉を引用する
ときがあると思いますが、本当に説得力がないですね。そ
の人が放った名言は、その人の苦勞とかそういうのがあつ
てこそその説得力なので、まったくの他人が用いても意味が
変わってきます。（季川詩音）

異国にてマイノリティーとして生きる　宮坂変哲

　　事実として、異国の地（タイに限らず）では、我々日
本人はマイノリティー。「ようこそ」というところもあれ
ば、そうじゃないところもある。とはいえ、「せつかく来
てやったんだから日本の文化も受け入れてくれ」という態
度は違う気がする。異国の地で生きることの難しさを表現
した句。（季川詩音）

ゴーヤからゴーヤに唄ふ子守唄　しまねこくん

　　ゴーヤーよいこだねんねしな。　（名大　ぽち

レンタルビデオのように生きろと言う　季川詩音

　　冴えてますね！　（堀川朽葉）

かたちだけ蛇のようだが真人間　汐田大輝

　　対義に「人間の姿をした蛇」がある。ならば「かたち
だけ蛇」の方がいい。蛇をブンブン振り回していたという
バイトのおじさんの武勇伝を聞かされる。（月波与生）

何度目の市役所だらう 多言語の秋の窓口除籍とる 堀川
朽葉

ゝ外国人が増えてきて、市役所の案内も多言語になって
きました。地域差もきつとあるような感じはしますが、英
語や、韓国語、中国語、フランス語、ベトナム語、インド
ネシア語あたりは馴染み深いですね。わざわざあるという
ことはそれなりに需要があるのだらうと思いますね。(季
川詩音)

トーテムポリートマス試験秋の空 山田真佐明

ゝ短腹句、サンゲタン句が好きです。作者ならではの言
葉の幹旋と語順の組み立てになっていて、それが独特の韻
律感を生んでいるような印象が来ます。抑制の効いたユー
モアと少しの哀愁(石川聡)

詐欺メールだけが連絡をくれる深夜 非常ロドット

ゝ深夜に来るメールといえば、詐欺メールですね。でも、
夜中に来ることで詐欺だと気づけますし、夜中だからこそ
被害に遭う人もいるのかもしれない。「いまは営業時
間外だからネットで支払ってくれ」とか、本当に巧妙化し
てます。勿論、そんなことはないですが。詐欺ですね。

(季川詩音)

からだからからっぽになるだからから 都まなつ

ゝからから句の響きが面白い。「だからから」の終わり
方もいい。ひらがなだけにしたのもいい。(月波与生)

巨峰から北海道へ名義変え クイスケ

ゝ北海道とはいささか広いが巨峰にとってはそれほどで
もないと信じているのだらう。名義変えた途端九州の兄

貴が帰ってくる。(月波与生)

真っ暗な海岸パイプ椅子軋む 空野つみき

「真っ暗」だけど波の音は聞こえる。海岸にあるらしいパイプ椅子の軋みが聞こえる。波の音と椅子の軋み、真っ暗な空間に、ふたつの音が混じり合う。真っ暗、ひたすら真っ暗。ふたつの音だけの空間で、自分の存在が軋みだす。真っ暗の向うに、海も椅子は、本当にあるのだろうか。(岡村知昭)

家電たちの内緒話が響くからいつもより良いお酒をあげる
非常口ドット

「冷蔵庫と掃除機が日頃の扱われ方を愚痴る。絡まり合ったコンセントたちの苛立ちは募る。電子レンジの言い訳を蛍光灯が叱る。テレビとパソコンの不仲は相変わらず。飛び交う声の中、私はいつもよりいい酒を呑みながら、高みの見物。悪いな君たち。でも、君たちの主は、この私だ。(岡村知昭)

どうしても爽やかになる退勤時 石川聡

「いつも、豊かな季語と、味わいのあるお写真がありがとうございます。最近、ひねる俳句、転調のある俳句がつかれないし、作ったこともないな、と自分で気づいています。蕪村のような直球で鮮やかなものはめったにできるものでないな、ともわかってきて……でも豊かな俳句作り楽しみたいです(中川晶子)

ゆで卵黄身とヒヨコと同じ色並行世界で隣を見ない 青海波

「前半の「黄身とヒヨコと同じ色」も面白いのだけど、「並行世界で隣を見ない」は不思議なことを言葉にする人

もいるもんだなあと思いました。(月波与生)

今ぼくの背中に中指で触れた？ ミの鍵盤になった気がした 憚譚之傍見

GO BANGS が歌った「ドレミのまほう」は名曲であるが残念ながら今聴くことはできない。後半「ミの鍵盤になった気がした」の内省がとってもいいと思う。(月波与生)

ずる休み猫のおでこのにほひ吸ひ 秋月祐一

「にほひ吸ひ」とはまたずる休みっぽくていい。猫は家にも〰匹いるがおでこの匂いは嗅いだことがない。ずる休みをしなくっちゃ。(月波与生)

今死んであげたのが中島みゆき 西脇祥貴

「日本で一番中島みゆきの句を書いている男、西脇祥貴の一句。耳をすませば「誕生」が聴こえる。(月波与生)

放課後に図書室にある辞典から恋と愛の違いを探そう 季川詩音

「ドラマ「舟を編む」が思い出されました(山羊の頭)

空耳に赤い金魚がついてくる 水の眠り

「ピアスなどのアクセサリーだと思いましたが、「空耳」なのです。となると、空想の世界で、アクセサリーをつけているのかもしれない。空耳が多く、「空耳」も自分の体のひとつのように感じるときであるのかもしれない。(季川詩音)